

# 東京インドネシア共和国学校 について



東京の駐日インドネシア共和国大使館（現在改修中）から比較的近い場所に、東京インドネシア共和国学校（SRIT）があるのをご存知でしょうか。同校は、日本に滞在するインドネシア人の子供にインドネシア語による授業を行うため、1963年に設立されました。現在、幼稚園（TK）、小学校（SD）、中学校（SMP）、高校（SMA）まで16クラス、約120名の生徒が学んでいます。同校の教育方針と日本の関わりについて、オンラインでサイダン校長とリザ先生に伺いました。

## 日本社会への理解を通じて 国際的に活躍する人材を

東京インドネシア共和国学校 サイダン校長



### ——東京インドネシア共和国学校の歴史について教えていただけますか

当校は1963年に設立し、幼稚園、小学校、中学校のみの生徒数45名でスタートしました。高校が加わったのは1965年。東京都内の各所を転々とし、1971年に現在の目黒区に移転しました。以降、図書館や実験室など、施設を少しずつ拡充していきました。以前はSRITを卒業してもすぐに日本の大学を受験することはできず、日本の学校にも通わなければなりませんでした。2003年には文部科学省の認可の下、SRITを卒業した生徒が日本の高等教育機関を受験できるようになっています。

現在、全生徒のうち40%は日本に滞在する外交官のお子さんたちです。60%は、国際結婚や仕事などの理由で日本に滞在されている方のお子さんたち。中には、日本での留学を目的に来る子もいます。

今は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、授業やこれまで行ってきたイベントの開催も制限されている状況です。オンラインを駆使して対応していますが、課外活動を楽しみにしている子供たちには残念だと思えます。

### ——日本語のクラスはありますか

基本的に授業はインドネシア語で行っていますが、ネイティブ・スピーカーを招いた日本語のクラスもあります。国際的に活躍できる人材を育成するため、日本語のみならず、英語などの外国語学習も行っています。

### ——教育面ではどのようなことに力を入れていますか？

設立当初から、駐日インドネシア共和国大使館と協力して日本との交流、インドネシアの文化・芸術やインドネシア語の普及に力を入れています。たとえば、目黒区の国際交流協会と共同で文化・芸術・料理のイベントを開催していますし、日本の学校とインドネシア語の学習をテーマにした交流会



日本の小学校との交流イベントを開催

なども行っています。日本インドネシア協会とも、当校の教室を利用してインドネシア語講座を開催していますね（現在はコロナによりオンラインで実施）。

——生徒にとっては異国の地での生活になりますが、その点で意識されていることはありますか

実際に日本の社会を見て、ものの見方や生活に関する実践的な知識を学ばせるようにしています。その方が日本の生活への適応も早いですし、子供たちが将来のキャリアのイメージを描きやすいと考えています。日本科学未来館や羽田空港 ANA 旅客機メンテナンス施設、国会議事堂、NHK など、さまざまな施設での社会見学もその取り組みのひとつです。

——生徒はどのような将来像を描いているのでしょうか

当校から卒業していく生徒を毎年見っていますが、日本で勉強を続けることに非常に興味を持っていると思います。多くの卒業生は、経済・ビジネスを専攻し、慶應大学、東京国際大学、東京外国語大学など日本の大学に進学しています。日本での生活や日々の授業を通じて、日本でのキャリアを考える生徒が多いのだと思います。生徒たちからは、治安が良く、住みやすいとよく聞くので、単純に日本での生活を続けたいと考えている生徒もいると思います。

——今後の展望についてお聞かせいただけますか

日本に滞在するインドネシア人は年々増加傾向にあります。地方に住んでいるインドネシア人の方がお子さんを当校に通わせるのは難しい部分があります。そこで、オンラインを利用した遠隔教育の実施を検討しています。

インドネシアには日本人学校が4校あると認識していますが、日本にあるインドネシア人学校は当校のみです。今後は、日本に滞在するインドネシア人のために学校の数が増えていくことを願っています。

## 日本の習慣の文化的背景を 学んで欲しい

東京インドネシア共和国学校 リザ先生



——日本について、学校ではどのようなことを教えられていますか

幼稚園から高校まで、日本の文化と習慣を中心に教えています。日本には、郷に入っては郷に従えということわざがありますが、日本で生活していくためには日本の生活習慣とその文化的背景について学ぶ必要があると考えています。

具体的には、幼稚園や小学校では「日本事情」という授業があります。実際の日本での生活における具体例を交えて、何か起こったときにどういう対応が必要になるかを教えます。たとえば、間違っただけで人の足を踏んでしまった場合、何も言わずにいたことによってトラブルにつながることもあるので、謝り方について「ごめんなさい」と言うのか「すみません」と言うのか、細かなニュアンスの違いについても説明します。

中学校では日本文化の学習がメインになり、高校では日本文学の内容も取り入れています。日本の「竹から生まれた女の子（かぐや姫）」など昔話は特に人気があります。

——生徒からはどのような質問を多く受けますか

生徒の多くがイスラム教徒なので、食事や礼拝など宗教の違いからくる質問が多いですね。インドネシアでは見慣れていた生活習慣がこちらにはないので、不思議に思った生徒が質問してきます。

ただ、宗教の違いを除けば、日常生活に関する質問は多くありません。公共交通機関が整備されていて治安も良いので、日本での生活で困っているといった話は聞きません。千葉や埼玉から、公共交通機関を使って一人で通学する小学生もいるくらいです。

### ——生徒は母国語ではない日本語に対してどのように考えているのでしょうか？

サイダン校長のお話にもありましたが、日本の大学への進学を考えている生徒が多く、日本語学習に対して高い意欲を持っています。当校では卒業までに日本語能力試験3級レベルに到達するよう教育を行っていますが、ほとんどの生徒が1級を取って卒業します。入学したばかりの頃は日本人の言っていることがわからないなど言葉の違いに不安を感じる子が多いのですが、不安を克服したいという気持ちも日本語学習への意欲の向上につながっているのかもしれない。

### ——先生は日本での生活をどのように感じられていますか

私は2002年から当校で教えています。日本に来たばかりの頃は、本音と建前という概念に驚きました。普段の会話の中で建前で言っていることと本音で言っていることの違いがわからず、コミュニケーションや信頼関係をどうやって築いていったらいいのか悩みました。また、宗教上の理由で服装が日本の方とは違っていることで、多くの視線を感じて不安でした。カルチャーショックですね。電車で人の足を踏んでしまい、叱られたことも苦い思い出です。

生徒には、授業を通して日本人の礼儀正しさや時間管理を学ぶように教えています。インドネシア人はのんびりとした傾向があるからです。日本人の習慣を取り入れ、日常生活で実践できるようにしてもらいたいと思っています。

---

## 生徒が語る日本での暮らし

アオイさん 高校3年生



インドネシア人と日本人で違いを感じるのは、礼儀についてです。インドネシア人は、毎日何気なく冗談を言いますが、日本人はとても礼儀正しくしっかりしています。日本人と話をするときは、冗談を言うにしてもタイミングやマナーに気をつけるようにしています。

また買い物のとき、日本ではきっちりお釣りが返ってくることに驚きました。それを見て、支払いのときにはお釣りの計算をしっかりするようになりました。治安が良く、移動も楽で、普段の生活で不便と感じるところがないのも凄いことです。

学校では、ほとんどの子が日本の大学への進学を考えているため、どんな大学が良いか、どのように入れるかという話をよくしています。

日常生活では、新しいアニメとか漫画の話をする人が多いですね。日本で行ったところについては、インスタグラムで写真を投稿したり、コメントしたりしています。

私は2年前、学校の近くにある神社の夏祭りに行きました。そこで友達と美味しいものを食べたのがいい思い出です。現在はコロナで外出が制限されていますが、今でも鮮明に覚えています。

交流イベントや文化イベントを通じて、インドネシアの文化を尊重する日本の方をたくさん見えました。ニュース記事を読んでも、日本とインドネシアの協力について書かれた情報があります。インドネシアと日本の関係は良いと思います。

---